

次に、議席4番、櫻井実君。

〔4番 櫻井 実君登壇〕

○4番（櫻井 実君） 皆さん、こんにちは。議席4番の櫻井実です。傍聴者の皆様につきましては、お忙しい中、大変ありがとうございます。議長のお許しを得ましたので、2項目、3点についてお伺いいたしますので、執行部の明確な答弁をお願いいたします。

26年定例会最後の一般質問になりました。夢のある内容を質問させていただきたいと思いますので、よろしくお伺いいたします。

まず、第1項目は町の観光開発についてお尋ねいたします。いよいよ来年3月には圏央道境古河インターチェンジが供用開始されます。中央幹線へのアクセスの利便性の高まりにより、沿線都市との連携の強化、災害時の緊急輸送の輸送確保、新たな企業進出等によりさまざまな活性化が期待されます。また、本町から全国各地の行楽地へ、さらには翌年には全線の開通により茨城空港や成田空港へのアクセスが容易になり、さらに利用者が増加するものと予想されます。圏央道境古河インターの周辺開発については、先般第2地区についても基本構想業務の委託契約が締結され、地権者への説明も実施され、企業誘致の実現化が着実に進んでいるように思われます。開発後は固定資産税収の増加や雇用の創出が大いに期待されるところであります。

平成14年に圏央道が開通した東京の日の出町では、現在企業進出で2,000人、大型ショッピングで2,500人の雇用が創出され、固定資産税が5億円から10億円と増加したと言われていています。今後は地域開発と並行させ、圏央道の開発のチャンスを生かし、新たな観光開発の取り組みにより、他の市町村から多くの皆さんに来ていただき、町の活性化につなげるべきではないかと思えます。そこで、第1点は、本町の観光開発の計画はどのようになっているのかお伺いいたします。

第2点目は、新たな観光名所をつくる考えはないかという点についてお伺いします。本町の現在の名所は、利根川河川敷の菜の花、利根川の堤防やふれあいの里の桜堤、さくらの森の公園、高瀬舟と春の季節を限定した名所ばかりになっています。そこで、恒常的に観光客を呼び込める名所として歴史建造物を復元するなど、新たな観光名所をつくる考えはないかということについてお伺いいたします。

第2項目は、圏央道境古河インターチェンジ開発に伴うイベントについてお伺いいたします。圏央道の開発は、我が町では境大橋が完成したときのように、歴史的な大きな画期的な利根川を利用したアクセスの完成です。当時の橋は、利根川の木製の浮橋で、増水すると交通どめになった記憶があり、境大橋の開通は、当時各学校から日章旗を持って境大橋に向けてお祝いのパレードをしたことや、開通式の様子はテレビで放送されたと聞いたことを鮮明に覚えています。そこで、昨日町政報告でもございましたが、来年3月に予定されている圏央道境古河インターチェンジ開通に向けての式典やイベントはどのような実施の方向で進んでいるのか、再度お伺いしたいと思えます。

以上、よろしくお伺いいたします。

○議長（関 稔君） ただいまの質問の1項目に対する答弁を求めます。

秘書公室長。

〔秘書公室長 橋本健一君登壇〕

○秘書公室長（橋本健一君） 私のほうから、櫻井議員の1項目めの観光開発についてのご質問にお答えします。

まず、1点目の町の観光地開発の計画はどのようになっているかのご質問でございますけれども、本町では平成3年に観光事業の振興発展を図り、観光開発を促進するとともに、産業経済の進展と文化の向上に寄与することを目的にしまして、境町観光協会が設立されました。今日まで境町の観光事業を担ってきたわけです。さかいふるさと祭りや境だるま市などのイベントの開催、それから道の駅さかいの運営、高瀬舟の周航を中心に事業を展開してまいりました。そして、来年3月には圏央道境古河インターチェンジが供用開始されます。企業の誘致による雇用の拡大、町税の増収など、その経済的波及効果に大いに期待しているところであります。と同時に多くの集客も見込まれることから、観光事業を充実していく必要があると考えております。

そこで、今後の計画といたしましては、河岸のまちづくりをテーマにいたしまして、道の駅のリニューアル、それから水上交通のビジネスモデル化、河岸のまち歩き観光、河岸の土産品開発を中心に事業を進めてまいります。道の駅につきましては、いわゆる通過する道路利用者へのサービス提供の場から、地域の課題を解決する場に成長してきました。これからは、境町の地域のプラットフォームとしての役割が重要視されております。今までの中継機能、情報発信機能、地域連携機能を中心に文化、雇用創出、食、防災拠点、商品開発等さまざまな施策と連携を図りながら、道の駅の第2ステージづくりを進めてまいります。

次に、高瀬舟についてでありますけれども、利根川の水量によって、いわゆる4月から9月までの短い期間の周航に限られていますが、船に風防等の改良を加えまして、その他の期間や夕方等に船を係留した状態でイベントなど、境河岸と一体となった会場として広く利用することを計画しております。さらに、舟運は、要するに都市部からの緊急避難路として防災の観点からも再注目をされております。この様子を今後のまちづくりの根幹の一つにしていきたいと考えております。

次に、2点目の歴史建造物を復元するなど観光名所をつくる考えはないのかのご質問でございますけれども、建造物だけではなく、境町にはまだまだ目に見えない観光資産が眠っていると考えております。そのようなことから、観光協会内に有志による河岸のまち歩き観光検討部会を設置し、その掘り起こしに努めております。道の駅さかいを中心に町なかを歩きますと、昭和を感じさせるレトロな食堂などもあり、懐かしい風情を醸し出しております。境町に住んでいると気がつかないよい場所も発見できます。新たな観光施設をつくるだけではなく、探し出し、関連性を見出し、そしてストーリー性を大事にして観光資源の開発に努めてまいりますので、ひとつご理解のほどよろしくお願いたします。

以上であります。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問ございますか。

櫻井実君。

○4番（櫻井 実君） 観光開発につきましては、先ほど言ったように道の駅の周辺の改修、あるいは高瀬舟等、こういったもので今までどおりやっていくのかなというような感じがいたします。先ほどありましたように、圏央道の開通を機に集客効果、こういったものも具体的な観光開発として策定していただきたいと思います。

これは一応要望ですが、そのようなことで先ほど町の眠っているいろんなものがあると言われましたけれども、これ目に見えたものをやらないと集客にはつながっていかないかと思しますので、その辺についてはよろしく願いいたします。1点目につきましては、再質問はございません。

2点目につきまして再質問いたします。先ほど言われましたように、町の中には眠っている資産がたくさんある。たくさんあるのでしたら、早目に掘り起こしてほしいなと思います。私は、どこにあるかなというものをちょっと考えましたので、その点について皆さんにご提案したいと思います。

境町には500年前、戦国時代に関宿城から北方の東北約7キロに伸びた長井戸沼の地方に長井戸城と、さらにその沼を挟んだ稲尾城がありました。関東の中心における軍事上の重要拠点として、北条ときやすが、「この地を抑えることは、一国を獲得すると同じである」とまで高く評した歴史的な要地であります。

ここでちょっと要図を出しますので、その補助者として濱野議員をお願いいたします。

○議長（関 稔君） それでは、質問者から今、濱野議員を使いたいということでございますので、これを私のほうから許します。

はい、どうぞ。

○4番（櫻井 実君） これが利根川でございます。昔は利根川こっちにはなかったのですけれども、古利根川で権現堂のほうが昔の利根川でございました。先ほど言いました関宿城が、今は資料館としてございます。現在の位置とは、当時はちょっと違ったようです。境町になると、先ほど申し上げました長井戸城、稲尾城というのがあります。これは水海城というのもありましたけれども、これは今の水海小学校の跡地です。それと、これを結ぶ先に逆井城というのがありますけれども、これが防御の要諦であったというふうに、資料によってはされております。

また、この長井戸城の先に稲尾城というのがございましたけれども、これが長井戸城の出先の城として防御の要地でございました。この先には・生城とか山田城があり、防御していたということでございます。当時は、稲尾城には稲尾加賀守、長井戸城には菅谷左京という城主がおり、居城として住んでおられたようです。

現在の状況ですけれども、眠っているのですけれども、当時59年発掘、59年に史跡発掘調査をしているのですけれども、その後は土が埋まったような状態、ここに樹木が生えているような状態です。

こちらの稲尾城につきましては資材置場、こんなふうにして利用されているところで、ちょっと史的には何も価値がないのでこうしないのか、あるいは眠ったまま予算がないのでやらないのか、現状はこんな感じでございます。これが圏央道でございます。薄いところが、これが圏央道。この点線のところが354のバイパスの予定地でございます。はい。

このような位置関係に稲尾城、長井戸城はあるわけでございます。そこで、この稲尾城は発掘調査がまだ、先ほど言われたように現在実施されていない。まだ看板一つないというような状態でございます。これ町の魅力化として、この2つの城を復元させ、資料館として、あるいは休憩場所として町の観光名所、このようなことにするような考えはないのかお伺いいたします。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

秘書公室長。

○秘書公室長（橋本健一君） お答え申し上げます。

先ほど櫻井議員のほうから、いわゆる関宿城、水海城、それから逆井城でしたか、それらにつきましては昔戦国時代になりますけれども、有力な武将が住んでいたということを聞いております。ただ、長井戸城とか、あと稲尾城と、あとさっき言いました長井戸城の出城と言ったのですか、田向いの城というのですがそこいら辺につきましては歴史上見ますと、ああ、そこにあるのですね、豪族の要するに館というような形で聞いております。そして、歴史上もその今の資料、どういう建物があったとか、そういうのがちょっとわかりませんので、歴史上残っておりませんので、それについての復元というのはちょっと難しいかと思っておりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問ございますか。

櫻井実君。

○4番（櫻井 実君） 私、完璧なものを復元させようと思っているわけではないのですけれども、やっぱりこの町にはシンボルがないのです。この町、境町としてのシンボル、そういったものが欲しいので、全く鎌倉時代あるいは戦国時代、こういったものに天守閣を建てればよいというような発想ではないのですけれども、そういった町のシンボルとなるような建物、皆さんが観光地として楽しめるようなもの、そういったものがこの町にあってもいいのではないかと、そういう思いで質問させていただきました。

このような城をつくることによって、私は圏央道開通に伴って町に来た人がサイクリング、ふれあいの里から自転車に乗って、先ほどの354のバイパス、この辺の通りにサイクリングコースをつくりまして、この稲尾城や長井戸城、こういったものを見学する。そして休憩する。そして、その先にある、横塚にある毘沙門塚古墳、前方後円墳の町内最大の古墳なのですけれども、そういったところを史跡をめぐることができる、そういった観光施設があってもいいのではないかと思います。このサイクリングコース、こういったものの作成についての考え方を、町のほうはどのように考えているかお願ひいたします。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

秘書公室長。

○秘書公室長（橋本健一君） お答え申し上げます。

その歴史建造物のいわゆる復元の周りについてのサイクリングコースというのですか、そういうものについての要するに計画とか、そういうのはございませんので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問ございますか。

櫻井実君。

○4番（櫻井 実君） 歴史的な価値がないと、豪族のつくったしよせん城だろうと言われますけれども、やっぱり境町にも何か、先ほど言ったようにシンボリックなもの、そういったものをつくっていかなくてはいけないのではないかと思います。

圏央道を走っていきますと、牛久には大きな牛久大仏があります。東本願寺の仏像なのですがけれども、どこを走っていても仏像が見えるのです。別にそこに宗教心があるわけではないのですが、すごく目立ちます。ですから、この境町に来て、ああ、ここが境町だと圏央道から見てわかるようなもの、私はそういったものはシンボルとしてあってほしいと思っております。

そこで、稲尾城あるいは長井戸城、こういったものの築城をしまして、特に稲尾城の付近には鉄塔をつくと。この鉄塔は、100人ぐらいが乗れる鉄塔。これは利根川が決壊した場合、避難所としても使える。しかし、ふだんは観光の名所としてそこから風景が眺められる、あるいは野鳥の観察ができる、子供たちが遊びに来れる。こういった施設、そういうようなものがあってもいいのではないかと思いますけれども、そういった面では多目的なそういった施設、そういったものをつくってもいいのではないかと思います、町の考え方がございましたらお願いいたします。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

秘書公室長。

○秘書公室長（橋本健一君） お答え申し上げます。

一応櫻井議員さんの提案という形で受けとめまして、今のところそういう計画はございませんので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（関 稔君） これで1項目に対する質問を閉じたいと思ひますが、大丈夫ですか。

○4番（櫻井 実君） はい。

○議長（関 稔君） 次に、2項目に対する答弁を求めたいと思ひます。

秘書公室長。

〔秘書公室長 橋本健一君登壇〕

○秘書公室長（橋本健一君） 次に、櫻井議員の2項目め、圏央道境古河インターチェンジ開通に伴うイベント等についてのご質問で、来年3月の圏央道開通に向けての開通式の準備はどのように進捗

しているかのご質問でございますけれども、この件につきましては、きのうの町長からの町政報告にもありましたように、国土交通省から境古河インターチェンジの開通日につきましては、平成27年1月末に正式発表が予定されておまして、開通式につきましても埼玉県、茨城県どちらかの1カ所で開催される予定であり、場所についても現在調整中であると聞き及んでおります。

また、市町村で計画していますイベントでございますけれども、幸手市や五霞町においてはウォーキングを中心としたイベントを企画していると聞いております。境町でありますけれども、テレビ局との連携を図った企画を進めたく、イベント企画会社と内容の調整を現在詰めているところであります。もちろん町民参加型のイベントもあわせて実施したいと考えておりますが、内容の詳細が決まり次第、報告させていただきますので、ひとつご理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

また、境古河インターチェンジの名称から、古河市の協力を得ながら進めていく考えでありますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

また、今定例会に、このイベントの委託料としまして補正予算を500万ほど計上させていただいておりますので、あわせてご理解のほどひとつよろしくお願ひいたします。

以上であります。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問ございますか。

櫻井実君。

○4番（櫻井 実君） 圏央道の建設現場について、先般区長さんの皆さんが上って見られたということで、付近の住民の方からもぜひ見てみたいと。自分たちの町がどうなっているのか、自分たちの部落がどうなっているのだろうかとか、ぜひ見てみたいということで記念ウォーキング、こういったものを先ほどお話もございましたけれども、ぜひ実施していただきたいと思ひます。愛川町におきましては、本町のみならず他府県からも参加されて、1万6,000人ぐらいが参加されたと言っております。稲敷市においては、約2,000人ぐらいの方がその記念ウォーキングに参加したと言っております。ふだん開通すれば、絶対人が歩けない自動車専用道路です。この機会に、ぜひこの記念ウォーキング、マラソンは高齢でちょっとできないと思ひますので、やはりウォーキングで境古河インターから利根川の手前までしか行けないかもしれませんけれども、そういったところの計画をぜひ実行していただきたいと思ひます。

また、出口付近では、その圏央道の出口付近においては多分イベントとか実施されるのかなと思ひますけれども、そういった際にも販売できる記念品や記念のグッズ、こういったものを販売してPRに努めていただきたいと思ひますが、その辺についての考え方がございましたらお願ひします。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

秘書公室長。

○秘書公室長（橋本健一君） お答え申し上げます。

その件につきましても、全て企画会社のほうに委託するような形で進めておりますので、先ほど申

し上げましたように、全て詳細が決まった段階で報告させていただきますので、ご理解のほどひとつよろしくお願いたします。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問ございますか。

櫻井実君。

○4番（櫻井 実君） 最後に要望ですけれども、記念イベントにつきましては多額の経費が使われるようだけれども、多くの町民の皆様がいつまでも心に残るようなイベント、こういったものについて企画立案をお願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（関 稔君） これで櫻井実君の一般質問を終わります。